

オープニングトーク

はい。今日もあえて世界中の皆さん、こんにちは。えー、カレントワのプロデューサー、ゴタニミュージックワールドワイドの代表、権谷達哉です。

えっと、今日はね、あの、特にこれと言った話そうと思ってるテーマもないんですけど、でもあの何て言うか、昨日たまたまね、あの、広島で原爆が落ちた日ということで、あの、元々反戦運動というか活動っていうものをメインにやっていた自分としては、やっぱり色々思うことはあったんですが、何ていうか 1 つだけこれは何とかしなきゃいけないって思うことがあって。

あの、皆さん本当に原爆に対する憤りとか、核に対する憤りとか、それは当然なんですけど、あの、アメリカがやったことに対する憎しみをいつまでも持っていて欲しくないな、っていう思いはあるんですね。

あの、本当に戦争っていう極限状態の中でああいう行動を取ったっていうのは、確かにあの、非難されるべきところはものすごくたくさんあるのは分かるんですけど、うーんと、本当に心苦しいんですけど、同じような状態にあった時に日本がそういうことをしなかったかどうか、っていう思いもあって。その、ルールが合っていないのがやっぱり戦争なのかな、っていう気がするんですね。

だから今でも僕が願ってるのは、そういうルール jejune(※ルールがない)戦い・争いに、やっぱり国際社会、ま、民間でもいいんですけど、がいかに持っていけないか。武力による解決を図らないで済むように持っていけないか、っていうことなんですよ。

うん、だから本当に、もう綺麗事ばかりで申し訳ないんですけど、自分本当に 35 くらいで本当に人生をちょっと投げ出していた時にですね、そういうことを叶えられる方法をちょっともがいて探してたんですよ。それで文筆に走って、音楽に走ってっていう、そのいわゆる啓蒙活動みたいなことに向かおうって決めるんですが。

なんか最初 10 年くらいは本当に何しても答えが出ないような形で。うん、まあ、その間ね、一緒に揉めた仲間と最近ようやく何というか、発信力というか発言力を持つようになって。まあ、特にアメリカ、ドイツ、中国なんですよ。その辺の仲間となら何かできるんじゃないかなっていう、まあ勘違いかもしれないですけど、思うようなところまで来たんですよ。

まあ今回のね、ラジオなんかでも日本全域、アメリカ、ドイツ、オーストラリアっていうところまで、ちょっ、ちょっとしたね、あの、プロモーションでできるっていうところが来て。今回あの、この放送の中でも、あの、何て言うんですかね、特別番組っていうのを、8時間の特別番組っていうのを組んでもらって。組んでもらったというか組んで、それを全世界に流してもらえると空気所にちょっとずつ持っていました。

まあとは言ってもね、僕の独り言のような理想論とみんなで作った音楽と、えー、能登のね、先輩方のコメントを流してっていう、まあ発信力があっても発言力はそうないよな、そんな中身ではあるんですけど、まあ叶えることができました。

それでね、あの、昨日実はあの、えっと、この「のとマザーズウェーブ」っていう番組の、その看板を作ることになって。その現場になるチラシを作り上げた現場なんですね。それであの珠洲市にある矢野さんっていう僕の大先輩の、あの、看板屋さんがあってそこに依頼して、家(僕、今、仮設住宅に住んでるんですけど)、その仮設住宅に置く看板を作ることになったんですよ。ちょっと図々しく自分の顔なんか乗せたりなんかして、うん。

でもそうやってね、こういう、まあ僕ら被災地に住んでるってこともあるんですけど、まあちょっとだけハンディキャップ持ってる僕らみたいな人間がちょっとPRすることって、意外と効くのかなと思ったりとか。なんかやっぱこういう反戦でも平和でも、あんまり豊かな人が言っても聞かないんですよ。

正直言って豊かな人には申し訳ないですけど、「お前らそれで何やって何があっていったんじゃねえの」みたいに、うん、皮肉で言う人がいたりとか。まあ僕に対してもそうかもしれないですけど、豊かな人の言うことってあんまりね、届かないっていうのは残念だと思うんですよ。

でも本当は豊かな人ってい論な表現手段持ってるからね、その財源も含めてなんだけど。いろんなこともできる人たちなんだから、もっと頑張っで欲しいと思うんだけど。まあ俗にね「金持ちはケチ」とかっていう、もうそういう次元の話じゃなくてね。

でも本当に、なんかみんなができること、できることをできる範囲でっていうなら、豊かな人にこそできることがあるって思いますし、権力を持ってる人にはもっとうまくやれることもあるし。僕らみたいなね、あの何て言うか、ハンディキャップって言っても実際ハンディキャップでもないんだけど、そういう何て言うかコンプレックスを持った人間がやるよりも、よっぽどうまくやれるんじゃないかな、とかって思うことは正直ありますよ。

まあでも本当に、そのハンディキャップがどこから来たのかっていうことを考えた時にね、やっぱ社会の歪みとか歪みとかっていうのも当然あるので、まあそこに対する後ろめたさで何もできないっていう風な人もいるんじゃないかなと思うんですよ。

でも結構そういうことって、あの、コンプレックスとか歪みとかっていうところがきっかけで、世の中に争いとか憎しみが生まれることってあるんじゃないかなって思うんですよ、うん。

まあちょっとね、あの、今日はね、あの、音楽をたくさん聴いて欲しいなと思って、うん、ちょっと適当に、適当にセットリストを組んでみました。中にはね、あの、昨日組んだ曲とかもあって、聴いて欲しいなって思ってますね。

はい、それでは今日もね、すごく石川県暑いですけど、皆さん元気に過ごしてくださいね。えっと、カレント及び、なんだ、ゴタニミュージックワールドワイドの代表と、このラジオ局の運営のゴタニがお届けしました。お付き合いいただきありがとうございます。

エンディングトーク

えっと、うまく言えないんですけど、自分はロックミュージシャンだ、ロックの作家だって振る舞ってきて、それであの、反戦音楽やってるんだってみんなにある程度通じてきた部分もあったと思うんですけど。でも実際ね、あの本当にこういう音楽作ってる、まあ裏面って言ったらおかしいけど、背後にはね、すごいナイーブな感覚の方が圧倒的に強いんですよ、正直言って。

まあ例えば、あのちょっとこう、こういう風に泣きそうになるのはダメなんですけど、今回の『DEW』っていう曲を作ろうと思った背景には、あの、一緒に音楽をやっていたロシア人の仲間がどうやら戦場に行っていたようだ、まあちょっとまだ確認取れてないんですけど、そういう風な背景があって。

もう何というか、涙が溢れそうっていうか、本当に涙が出てくるような……そういう風な歌が1番最後に流した、その『朝のように』っていう曲があるんですけど。まだ英語の聴いてる間はね、まだちょっと、うん、現実を忘れる側面はあったんですけど。

日本語で自分の書いた歌詞にダイレクトに、まあこれはたまたまAIだったんですけど、曲がついて本当に感情が胸の奥底を、正直突き破るような感覚がすごくあって。

もう曲ができて半年以上になるんですけど、未だにこの曲聴くたびに涙が溢れるというか、こぼれるというか、そういう感覚になるんですね。

まあ、この曲についてちょっと何かをしゃべろうとすると、やっぱり本当に堪えきれない涙が溢れてくるんですよ、今でも。

えー、ここであの、今日流した曲を、今日のこの1時間で流した曲を紹介します。えっと、オープニングの『DEW』は別として、2曲目から、

1. 『Apology to the world』
2. 『Cry no more』
3. 『Bridge』※これ今日仕上げた曲ですね。
4. 『DU for you』
5. 『One world』
6. 『平和とは何』
7. 『My day Radio Edition』

8. それでさっき言った『朝のように』

2, 3, 4, 5... オープニング入れると10曲ですね、結構なボリュームですね。

まあそんなことはさておき、でも本当に何というか、戦争ってね、直接で自分が輪の中に入っているとのおさら辛いんだろうけど、その自分がね、なんかそのセーフティなところにながら、本当に危ない目に遭ってる……まあ今回のね、あの熊本の震災なんかでもそうなんですけど、自分がセーフティなところにいるからこそ、その当事者の胸の痛みとか苦しみていうのは、何て言うんだろう、他人事だからこそなおさら重く受け止めてしまう。

またそれを自分自身も心のどこかで望んでいるっていう、ちょっとある意味不可逆的な反応って絶対あると思うんですよ。

まだ自分が被害者でいた方が救われる部分もあるんじゃないかなって思ったりとかしますよね。まあ本当に世界中で、まあ僕は特にロシアの戦争は特に行方が気になるんですけど、今のね、イランとかの、イランとアメリカとかね、そういうのもなんかね、その戦争の捉え方って不思議なもので、結局は他人事なんですよね。

でもそこに自分との接点がわずかでもあるっていう風に思った時に、完全な他人事ではなくって、そこがあの、微妙な境界線で……胸の痛みと、全く他人事でいられるという境界線でもあると思うんですよ。

だからその、僕みたいに中途半端ながらも音楽で世界で繋がってるっていう感覚が、あの、守備範囲っていう範囲において、なんかやっぱあの、広いようで狭い、狭いようで広いという、そんな中に常に自分を置いているからこそ、やっぱ重く受け止めてしまうんですね。

それであの『DEW』に関して言えば、カレントワっていう諸外国の仲間がね、全く疑うことなく同意して「やろうやろうやろう、お金なんかどうでもいいよ、セールスもどうでもいいよ」って、ラジオシングルって形に発表したんですが。まあ結果的にね、広く広めたっていうことで、いろんな形で今広めようとしてますけどね。

まあでも本当に音楽とか啓蒙活動とかって、なんか何かを叶えたいっていう時には、本当にお金以上の価値っていうのをみんなが生み出してくれるってことに、僕は本当

に言葉にならない感動を覚えましたし、こういうのがあるからやっぱり続けていられるのかなという風にも思ったりはしてます。

今日はどっちかというと、あの僕の一人よがりな音楽がメインでしたけど、バンドでやったのはちょっとだけで。こういうことをね、やっぱり世界中でね、結託してという大げさですけど、みんなで思いを揃えてというかやっていけたら、もうちょっと続けていく意味とか価値を自分の中で見出せるのかな、となったりしていますね。

あの、この僕の音を聴いてなんか、あの何かしら感じていただけたところもある人もいると思うんですよ。まあそういう風なことを信じて僕もこういうラジオでね、やらせていただいているので。

まあ本当にリリースとかプロモーションで曲を流してくれるっていう人も多い中で、もうどうせなら、どうせリリースとプロモーションやるんだったら、生のもの(本当の自分)を見せてほしいなと思って。

これからね、いろんな人と関わり持っていくと思うんですけど、まあそこが薄い人とは多分僕は絶対にやらないし……誰が決めるんだ「薄い」とかっていう話なんですけど(笑)。

はい、それでは、えっと 59 分 30 秒過ぎたところで、えっと今日も、えっと何日に流すか分かりませんが、放送終わろうと思います。権谷達哉でした。